

南国市職員募集

試験区分	受験資格	任期
保育士・幼稚園教諭(任期付)	昭和51年4月2日以降に生まれた方で、 保育士及び幼稚園教諭の資格を持っている方 (令和3年3月31日までに 当該資格等を有する見込みの方 または令和2年度実施の国家資格等を 取得する見込みの方を含む。)	令和3年 4月1日から 令和6年 3月31日まで



- 申込期限 / 令和3年1月21日(木) 17:00まで
- 申込方法 / パソコン又はスマートフォンを利用したインターネット申込み
*申込みは南国市のホームページから行ってください。
*申込期間中は24時間いつでも申し込むことができます。
- 試験内容・試験日など / 採用試験案内で確認してください。
- 申込書の請求・問い合わせ
総務課職員係 (〒783-8501 南国市大桶甲2301 ☎880-6551 <https://www.city.nankoku.lg.jp>)
- 申込書配布場所 / 市役所総合案内・総務課職員係で配布しています。また、南国市のホームページからもダウンロードできます。
* 郵送での請求は、住所・氏名を記入し、140円切手を貼った返信用封筒(角2)を同封してください。
- 採用予定日 / 令和3年4月1日以降
- 採用予定人数 / 若干名

市民からの便り

(親子クイズ) 今回のクイズは得意とする分野です。よく解くことができれば、2021年もこのように楽しく過ごせます。



南国市地域スポーツハブ事業

家族でウォーキング

南国市地域スポーツハブの取組みとして、家族で参加できるウォーキングイベントを開催します。新型コロナウイルスの影響で運動する機会が減っていると思いますので、日頃の運動不足解消を兼ねて家族やグループで参加してみませんか? 参加するお子様には参加賞も準備しています。

- 日 時 : 1月11日(月・成人の日) 受付 9:30 ~ スタート 10:00 ~
※雨天時は、瓶岩体育館にて軽スポーツを行ないます。
- 集合場所 : 南国市立瓶岩体育館
- 参加定員 : 先着 10組
- コース : 参勤交代コース(約4.9km、120分)
- 参加費 : 無料
- 準備物 : 飲み物、タオル、軽食(小腹が空いた時用)

注意事項
・イベントに参加される方は、健康チェック表(住所・氏名・連絡先・体温等)の記入をお願いします。
・新型コロナウイルスの感染状況により中止となる可能性があります。

■ 申込み・問い合わせ 南国市地域スポーツハブ事務局
総合型地域スポーツクラブ まほろばクラブ南国(南国市立スポーツセンター内) 電話 865-8015 FAX 865-8016

知って得する国民年金

~新成人の皆さんへ~ 20歳になったら国民年金

国民年金は老後や障害を負ったときに、働いている世代みんなで支えようという考えで作られた仕組みです。

- 日本に住んでいるすべての方は20歳になると、国民年金の加入者になります。年金手帳が送付されますので、大切に保管しておいてください。
- 保険料を納めることで、老後や、病気やケガで障害が残ったとき、家族の働き手が亡くなったときに年金を受け取ることができます。
- 保険料を納めなければ年金を受け取ることができませんが、保険料の納付が困難な方のために保険料免除制度がありますので、ご相談ください。

- 問い合わせ / 南国年金事務所 ☎864-1111
 - <自動音声案内に従って②→②と押すと、国民年金課に繋がります>
 - <自動音声案内に従って①→②と押すと、お客様相談室に繋がります>

令和2年分公的年金等の源泉徴収票を送付します

国民年金・厚生年金保険の「老齢年金」など、老齢(退職)を支給事由とする公的年金は、所得税法上の雑所得として課税の対象となります。

日本年金機構から、老齢年金を受給されている方へ、1年間の年金の支払総額などが記載された「公的年金等の源泉徴収票」が令和3年1月中旬に送付されます。

「公的年金等の源泉徴収票」は、確定申告の添付書類として必要になります。確定申告の詳細については、お近くの税務署など、税務相談窓口にお尋ねください。

なお、「障害年金」や「遺族年金」は非課税ですので、「源泉徴収票」は送付されません。

市民からの便り

(親子クイズ) 今年は家庭でクリスマスを通す方が多いと思います。「コロナで大変ですが、笑顔のクリスマスを皆様が楽しめるよう祈っております。」

111 人権学習シリーズ

「自分自身のことを男性(女性)だと思ふ理由は」と聞かれたら、どのように答えますか。これは、先日参加した「LGBTQ」についての講演会(「人権教育セミナー」高知県教育センター主催)で、講師の大久保さんが最初に問われた内容です。今回は、この講演内容を紹介します。

「LGBTQ」とは、「レズビアン」や「ゲイ」(同性愛者)、「バイセクシュアル」(両性愛者)、「トランスジェンダー」(性別にとらわれない生き方の人)、「クエスチョニング」(性自認が分からない人)のような人のことです。「LGBTQ」の人の割合は、2018年の調査(電通ダイバーシティ・ラボ調べ)では8.9%(日本人の約11人に1人)で、統計的にはAB型や左利きの人と同程度の割合だそう。それを考えるとLGBTQの人に知らず知らずのうちに出会っているかもしれません。

高知市で女性として生まれた大久保さんは、高知県内で体育教員を8年間されており、その間も性自認に対して葛藤され続けてきました。平成25年に戸籍を男性へと

知っていますか? LGBTQのこと

変更され、大阪へ拠点を移し結婚もされています。

大久保さんは、これまでに誰にも相談できずひとり悩んだり、就職時にLGBTQだからと落とされたりなど、さまざまな辛い経験をされてきたそうです。「もしカミングアウト(自らの性的指向などを表明すること)をされたら、そのままのあなたでいいことを伝え、ほかの人には勝手に話さないことを約束してほしい」「知ることが大事。知らないから差別や偏見が生まれるのだ」と語っていました。また、最近では「パートナーシップ制度」を取り入れる自治体もあり、来年2月からは高知市でも導入される予定という朗報もあります。差別を無くすために、まずは知ることから始めませんか。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願って、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■ 問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎880-6569